

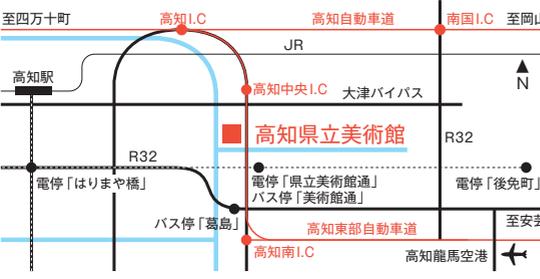
ご利用案内

【開館時間】9:00～17:00(入場は16:30まで)
 【休館日】12月27日～1月1日 *展示替えのため休室あり
 【駐車場(無料)】普通車144台・大型バス10台・身障者用2台
 *なるべく公共交通機関をご利用ください。

【観覧料(料金は全て税込み価格)】
 ●コレクション展/一般400円(団体320円) 大学生280円(団体220円)
 ●企画展/企画展毎に異なります。お問い合わせください。
 *美術館主催の企画展の観覧券でコレクション展もご覧いただけます。

美術館主催のコレクション展・企画展は
 ●高校生以下無料●年間観覧券所持者(2,620円)は無料●身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳、戦傷病者手帳、被爆者健康手帳所持者とその介護者1名は無料●高知県及び高知市長寿手帳所持者は無料
 ●団体割引適用は20名以上

アクセス



岡山から ➡ 高知自動車道で約1時間50分 ㊚ JR特急で約2時間30分
 高松から ➡ 高知自動車道で約1時間30分 ㊚ JR特急で約2時間
 松山から ➡ 高知自動車道で約1時間40分 ➡ 高速バスで約2時間45分
 徳島から ➡ 高知自動車道で約2時間 ➡ 高速バスで約2時間40分
 東京から ← 羽田空港から約1時間15分、空港連絡バス「葛島」下車
 大阪から ← 伊丹空港から約45分、空港連絡バス「葛島」下車
 福岡から ← 福岡空港から約1時間、空港連絡バス「葛島」下車

㊚ とさでん交通路面電車：電停「はりまや橋」から「ごめん」「領石通」または「文殊通」行で15分、電停「県立美術館通」下車徒歩5分。
 ㊚ 空港連絡バス：高知龍馬空港からは高知市内・空港間を結ぶ、とさでん交通の空港連絡バスがご利用いただけます。バス停「葛島」下車徒歩15分。
 ➡ 車・タクシー：JR 高知駅から20分/高知龍馬空港から20分/四万十方面、県外からお越しの方は、高知自動車道・高知インターから10分、安芸方面からお越しの方は、東部自動車道・高知南インターから5分、高知中央インターから3分。
 *東部自動車道方面からは、高知インターで降りられません。ご注意ください。

高知県立美術館

THE MUSEUM OF ART, KOCHI

〒781-8123 高知県高知市高須353-2
 TEL 088-866-8000 FAX088-866-8008
 📌 kochimuseum 📍 themuseumofartkochi
 📧 ARTMUSEUM_Kochi 📺 @TheMuseumofArtKochi

表紙：絵画《力士図》制作年不詳



MUSEUM GUIDE

こんなところ

高知県立美術館は、1993年11月3日に開館しました。これまでに近代・現代の美術作家や郷土関係作家のコレクション展と、国内外の様々なジャンルの作品を紹介する企画展を多数開催してきました。マルク・シャガールのコレクションは、世界有数の規模を誇ります。また、高知県ゆかりの著名な写真家・石元泰博のプリント・フィルム・関連資料等を網羅的に所蔵し、2013年6月、石元泰博フォトセンターを開設しました。能舞台を有する併設のホールでは、国内外のパフォーマンス・演劇・コンサート・映画・伝統芸能などを上演し、幅広く芸術文化に親しんでいただくため、講座・講演会・ワークショップなども随時開催しています。



主な収蔵作家

2026年4月時点で、42,424点の作品を収蔵しています。

【マルク・シャガール】

《空を駆けるロバ》《村の祭り》《路上の花束》《花嫁の花束》《オルジュヴァルの夜》の油彩画5点、《死せる魂》《サーカス》《ダフニスとクロエ》《ポエム》《アラビアンナイトからの四つの物語》《もの言わずして語る人》など、版画約1,200点を収蔵しています。

【石元泰博】

《シカゴ》《東京》《桂離宮》《伊勢神宮》《シブヤ、シブヤ》などの写真プリント約35,000点のほか、ポジ・ネガフィルム、石元氏が所有していた蔵書や愛用品などを収蔵しています。

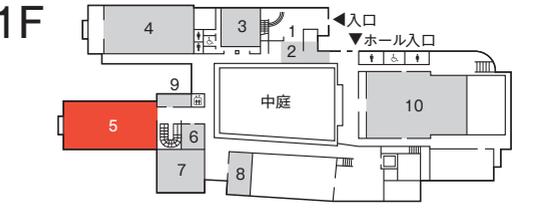
【国内外の主要作家】

アンディ・ウォーホル、大竹伸朗、アンゼラム・キーファー、マックス・クリンガー、パウル・クレー、フランク・ステラ、篠原有司男、ジャン＝ミシェル・バスキア、ウィリアム・パロウズ、舟越桂、キース・ヘリング、ヨーゼフ・ボイス、森村泰昌、ゲルハルト・リヒター、横尾忠則、若林奮ほか

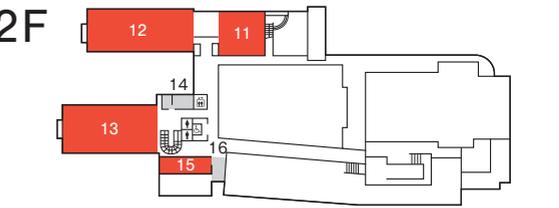
【高知県ゆかりの作家】

石川寅治、今西中通、絵金、大木裕之、岡上淑子、奥谷博、河田小龍、楠永直枝、台田佐和子、高崎元尚、竹崎和征、中山高陽、浜田浄、浜田葆光、土方久功、日和崎尊夫、正延正俊、森田曠平、柳原睦夫、山本昇雲、山本倉丘、山脇信徳ほか

館内案内



- 1 総合案内
- 2 ミュージアムショップ
- 3 ミュージアムカフェ・マルク
- 4 県民ギャラリー
- 5 展示室D
- 6 シアタールーム
- 7 創作室
- 8 講義室
- 9 休憩コーナー
- 10 美術館ホール・能楽堂



- 11 展示室A
- 12 展示室B
- 13 展示室C
- 14 休憩コーナー+授乳コーナー
- 15 石元泰博展示室
- 16 アート情報コーナー

設計監理：日本設計・環境設計・山本長水・アルティ・高知設備設計共同企業体

館内設備：
 ●車イス・ベビーカー ●多目的トイレ *2Fはオストメイト対応
 ●オムツ替え台 ●コインロッカー ●授乳コーナー ●エレベーター
 ●シルバーカー、杖、老眼鏡
 ●AED(自動体外式除細動器)*エントランス、美術館ホールに設置

サービス

【年間観覧券】
 年会費 / 2,620円 有効期間 / お申込みから1年間
 - 当館主催の展覧会を有効期限内何度でもご覧いただけます
 - 当館主催の映画上映会に当日でも前売料金でご入場いただけます
 *美術館1F総合案内にてお申込みください

【無料託児】
 企画展・ホールイベント開催中のみ不定期で実施します。日程などの詳細は美術館までお問い合わせください

【ご来館の皆様へのお願い】
 - 咳、くしゃみ、鼻水などの症状がある方は、咳エチケットなど他のお客様へのご配慮をお願いします
 - 館内で大声での会話は控えください

PERFORMING ARTS & FILMS

*内容等が変更になる場合があります。詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。

『Love Beyond (ラブ ビヨンド)』

6月19日(金)・20日(土)



イギリス発、感動の演劇が初来日!妻を失い認知症を抱える聾者ハリーは、介護士との交流の中で、薄れていく記憶とともに日々を生きていく。他者との関わりが、人生の終わり方を静かに問いかける物語です。

RAW MATERIAL
 Photo:Tommy Ga-Ken-Wan
 Producer: Raw Material

カンパニーデラシネラ

『シンデレラ』 新作初演

11月20日(金)・21日(土)

マイムをベースに、セリフのない独自の演劇を切り拓いてきたデラシネラによる、高知県立美術館発(古典名作劇場シリーズ)第4弾!俳優・浅野和之の“主演”の、大人も子どもも見たいことのない“もうひとつのシンデレラ”を、全国各地の劇場と共同製作し、発表します。



浅野和之 ©SIS company Inc
 カンパニーデラシネラ (左:小野寺修二、右:藤田桃子) ©鈴木穂蔵

神楽公演

2027年1月3日(日)

高知県内に伝わる神楽を上演するお正月恒例企画。新年の幕開けを能楽堂で迎えませんか?



春の定期上映会

「レオ・レオーニとカレル・ゼマン」

企画展「レオ・レオーニと仲間たち」関連企画

5月23日(土)・24日(日)



レオ・レオーニの名作絵本を映像化した作品と、チェコアニメの巨匠カレル・ゼマンの代表作を上映します。

レオ・レオーニ「スイミー」
 ©1987 Giulio Gianini and Leo Lionni
 ©2005, 2011 Nora Lionni and Carla Rezza

夏の定期上映会

8月22日(土)・23日(日)

秋の定期上映会①

11月1日(日)～3日(火・祝) *予定

秋の定期上映会②

11月7日(土)・8日(日)

冬の定期上映会①

2027年2月6日(土)・7日(日)

冬の定期上映会②

2027年2月23日(火・祝)～28日(日) *予定



企画展と併せて、長編作品を中心にホールでの特集上映を行います。

[HEAVEN-6-BOX] 1994-95年



2026.4
 2027.3

令和8年度年間スケジュール

高知県立美術館

THE MUSEUM OF ART, KOCHI

EXHIBITION

*年間観覧券をお持ちの方は下記展覧会を無料でご覧いただけます。(ジミー大西展、高知県展を除く)
*記載事項は、2026年2月現在のものです。名称等変更になる場合もあります。

2026年 4月 5月 6月 7月 8月 9月 10月 11月 12月 2027年 1月 2月 3月

展示室 A

コレクション・アラカルト

シャガールの油彩画をはじめ、当館が所蔵する秀作を紹介します。日本・西洋問わず選りすぐりの名品をご覧ください。

コレクション・アラカルト ①
若林奮《サルファ・ドローイング No.33》など
4月24日(金)～7月2日(木)

コレクション・アラカルト ②
合田佐和子《もの思うペロニカ》など
7月19日(日)～9月13日(日)

コレクション・アラカルト ③
ジャン＝ミシェル・バスキア《フーイー》など
9月15日(火)～11月15日(日)
休:9月23日～10月2日、10月19日～30日

11月3日 開館記念日

コレクション・アラカルト ④
ベルンハルト・ヘトガー《具象的コンポジション》など
11月17日(火)～1月11日(月・祝) 休:12月27日～1月1日

コレクション・アラカルト ⑤
手島右鼎《断雲》など
1月23日(土)～3月28日(日)

展示室 B・展示室 C

レオ・レオーニと仲間たち
4月24日(金)～7月2日(木)
教科書にも掲載されている『スイミー』をはじめ、『フレデリック』などの絵本で知られるレオ・レオーニ(1910-99)は、絵本だけでなく、絵画、デザインなど多彩な分野で活躍しました。生涯にわたる制作活動と、影響関係にあったアーティストたちを併せて紹介します。



コレクションによる特集展示
特集Ⅰ「戦争」
特集Ⅱ「ヒノマル・イルミネーション」
7月19日(日)～9月22日(火・祝)
当館のコレクションから、ふたつの特集展示を行います。展示室Bでは、第一次世界大戦に従軍し、凄惨を極める戦場を目の当たりにしたドイツ人画家、オットー・ディックス(1891-1969)が1924年に発表した版画集「戦争」を中心に紹介します。展示室Cでは、世界で活躍するアーティスト・柳幸典(1959-)の代表作《ヒノマル・イルミネーション》を公開します。



第80回 高知県美術展覧会
10月3日(土)～18日(日)
[主催] 高知新聞社 RKC高知放送
[会場] 展示室B・C 県民ギャラリー



大木裕之展 (仮称)
1月23日(土)～3月28日(日)
映画監督・現代美術家の大木裕之(1964-2025)は、1990年代初めに高知を重要な拠点のひとつとして以降、県内の風土や人々と深く関わり合いながら、多くの作品を手掛けてきました。2025年の急逝から間もなく開催する本展では、唯一無二のアートの実践者としての大木の功績を辿ります。



コレクション・テーマ展
生誕110年 森田曠平展
4月4日(土)～5月27日(水)
高知ゆかりの日本画家・森田曠平(1916-94)の生誕110年を記念する展覧会。院展の受賞作《磯》、傑作《花軍》をはじめとする当館の所蔵作品を一同に公開し、その画業を振り返ります。

コレクション・テーマ展
マルク・シャガール ラ・フォンテーヌの「寓話」
5月30日(土)～7月18日(土)
《ラ・フォンテーヌの「寓話」》は、《死せる魂》の成功を受け、シャガールが取り組んだ銅版画の大作です。フランスでは子供から大人まで、誰でも知っている有名な寓話にイメージを添えた、シャガールの野心作ともいえるものです。シャガールが編み上げた、詩情あふれる作品世界をお楽しみください。

ジミー大西「ホームタウン」高知展
7月24日(金)～9月6日(日)
画家・ジミー大西(1964-)の作品に影響をあてる「場所」に焦点をあて、それぞれの場所で経験したエピソードや心境を原画とともに紹介しジミーの創作活動の真相に迫る大規模展覧会。会期中はジミー本人も高知に長期滞在し、お客様や地域の人たちと関わりながら、高知を自分自身の故郷「ホームタウン」として生活します。本展では高知をモチーフとした新作も展示予定のほか、サイン会などの参加型イベントも予定しています。

ARTIST FOCUS #06 中山晃子
11月7日(土)～1月17日(日) 休:12月27日～1月1日
ジャンルや年齢を問わず、学芸員が推薦した高知ゆかりの作家を取り上げるシリーズ企画の第6回。今回は高知県須崎市に拠点を置き、国内外で活躍する画家、中山晃子(1988-)の個展を開催します。中山にとって初の美術館個展となる本展では、液状の絵具を流動させて、その変化を捉えた代表シリーズ「Alive Painting」から初公開となる新作まで、幅広く紹介します。

コレクション・テーマ展 深掘り! 山脇信徳
1月23日(土)～2月27日(土)
高知出身の洋画家・山脇信徳(1886-1952)は制作の過程でさまざまなスケッチや下絵を残しています。令和6年度までに収集したスケッチや下絵のほか、作家同士の交流がわかるハガキ、手紙などの資料をご紹介します。

石元泰博展示室
石元泰博・コレクション展
高知県ゆかりの世界的写真家・石元泰博(1921-2012)。世界随一の規模を誇る当館収蔵品から選りすぐり、3つのテーマにわけて紹介します。

夜のシカゴ
4月24日(金)～7月2日(木)
石元泰博《シカゴ 街》1959-61年 ©高知県、石元泰博フォトセンター



ALMOSTBLACK × 石元泰博
7月19日(日)～9月14日(月)
石元泰博《東京 子ども》1953-58年 ©高知県、石元泰博フォトセンター

出版記念 Little Ones(リトルワンズ) 1期
9月16日(水)～11月16日(月)
休:9月23日～10月2日、10月19日～30日
石元泰博《東京 子ども》1953-58年 ©高知県、石元泰博フォトセンター



出版記念 Little Ones(リトルワンズ) 2期
11月18日(水)～1月11日(月・祝) 休:12月27日～1月1日
石元泰博《シカゴ 子ども》1948-52年 ©高知県、石元泰博フォトセンター

出版記念 Little Ones(リトルワンズ) 3期
1月23日(土)～3月28日(日)
石元泰博《東京 子ども》1953-58年 ©高知県、石元泰博フォトセンター



ホーレル・能楽堂

春の定期上映会
「レオ・レオーニとカレル・ゼマン」
5月23日(土)・24日(日)

『Love Beyond (ラブ ビヨンド)』
6月19日(金)・20日(土)

夏の定期上映会
8月22日(土)・23日(日)

秋の定期上映会①
11月1日(日)～3日(火・祝)
*予定

秋の定期上映会②
11月7日(土)・8日(日)

カンパニーデラシネラ
「シンデレラ」
11月20日(金)・21日(土)

神楽公演
1月3日(日)

冬の定期上映会①
「宮尾登美子と中島丈博」(仮)
2月6日(土)・7日(日)

冬の定期上映会②
「大木裕之特集」(仮)
2月23日(火・祝)～28日(日) *予定